

Ⅳ-423

地域イメージとその形成要素に関する研究

ホクコン産業 正 員 ○山下 隆市
福 井 県 正 員 加藤 哲男

福井大学工学部 正 員 川上 洋司
福井大学大学院 山田 泰之

【1】はじめに

交流型社会に向けての活力ある地域づくりにおいて、地域アイデンティティの形成、そのための固有なイメージの発掘とその形成への取り組みがますます重要な計画課題となりつつある。こうした観点に立って、有用な計画情報を抽出すべく地域イメージに着目した研究が進められているが、まだまだ手法的に確立されているとはいえず、種々の観点からのアプローチの積み重ねが必要とされている。

本研究では、人々が地域に対して思い描いている意識(イメージ)に着目し、そうしたイメージの具体的な内容及び、その形成過程、さらにはイメージと地域の持つ様々な構成要素との関係等について明らかにする。

【2】分析の視点と方法

ここでは、地域イメージというものを、無数に存在する地域構成要素の中から、人々が個人の知覚により取り出した要素に対する主観的評価の集合と考える(図.1参照)。研究の視点は次の3つである。1. 研究の柱となる、人々の地域に対する心象を捉えるためにSD法を用い、その評価値に因子分析を施すことでイメージ評価に関係する心的構造の把握を行う。2. イメージ形成の前段階である人々が認知する地域の構成要素を抽出し、それによる地域性の分析を行う。3. 認知要素とイメージ(SD評価値)との対応関係を把握し、地域に対する個別イメージがどのような地域構成要素とどの様に関係するのかを明らかにする。なおここでは、福井県内11地域(市町村)を対象とし、SD法による心理(イメージ)評価データを収集した。これに用いた形容詞句対は10対であり、評価は7段階で行った。被験者は120人である。

【3】人々の地域に対するイメージ構造

SD法での形容詞句対に対する評価値をデータとし因子分析を行った結果が表.1である。固有値が1.0以上の有意な因子として2因子抽出され、それぞれの因子の意味するところを次のように解釈した。①「活性度」…地域を運動体として捉える尺度、②「整序度」…地域を空間構成的観点から捉える尺度。人々が地域をイメージする場合に、これら二つの共通因子が潜在的に作用しているとみられる。また、この2つの評価軸で構成するイメージ評価空間を設定し、その評価空間上での地域イメージを表したものが図.2である。この図より人々が抱くイメージからみた地域間の差異を定量的に捉えることができる。

【4】認知要素に示される地域性

本研究では「人々は、地域に関する情報をその人なりに総合化した結果、その地域に対する何らかのイメージを形成している」と考え、地域イメージの形成に関わる地域の構成要素について

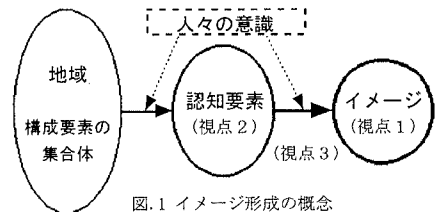


図.1 イメージ形成の概念

表.1 因子負荷量表

(-) -	(+) +	第一因子	第二因子	第三因子
新しい感じ	古い感じ	* -0.568	-0.002	-0.042
陰気な感じ	陽気な感じ	** 0.670	0.044	-0.163
秩序だった感じ	混沌とした感じ	-0.003	** 0.523	0.068
静的	動的	** 0.559	0.307	-0.176
感情的	理性的	-0.066	* -0.330	0.129
閉じた感じ	開いた感じ	** 0.695	0.041	-0.104
聖な感じ	俗な感じ	0.132	** 0.665	0.079
暖かい感じ	冷たい感じ	-0.181	0.190	0.156
男性的	女性的	-0.132	-0.077	0.648
細かい感じ	粗い感じ	0.024	** 0.519	-0.275
固有値		1.952	1.051	0.486
寄与率 (%)		19.5	10.5	4.9
累積寄与率 (%)		19.5	30.0	34.9
軸の解釈		活性度(+)	整序度(-)	

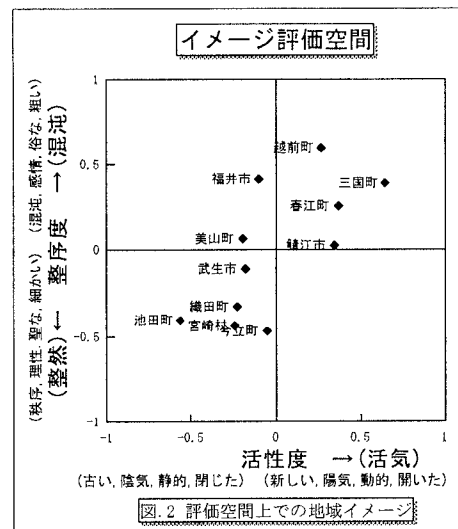


図.2 評価空間上での地域イメージ

も検討を行った。“地域に対して思い浮かべる事項・事物は何ですか”と被験者に問い、調査票に地域別に用意した構成要素群の中から思い浮かべた順に1～3位まで順位をつけて貰った。この順位づけを点数化し集計することで、地域を思い起こさせる要素（認知要素）を端的に把握することがねらいである。図に見られる得点の様子から次の3タイプがあり、その各々について地域の認識のされ方に関する考察を加えた。

▽a. ある要素に得点が集中するタイプ…1つ（又は2つ）の要素で地域全体が認知されている（図. 3）

▽b. 得点が僅差の複数要素で上位群…地域を認知する際の要素が3～4あり、地域が多様な視点で捉えられているを形成するタイプ（図. 4）

▽c. 要素全体に点数が分散するタイプ…地域を認知する要素が多数かつ分散的に存在する（図. 5）

また、この集計をもとに地域で重要と思われる認知要素を抜き出し、それらについて「社会・経済」、「自然・環境」、「歴史・伝統」、「地域づくり・娯楽」というジャンルで分類を行い、その結果から認知ジャンルにみる地域の特徴を見いだすこともできた。

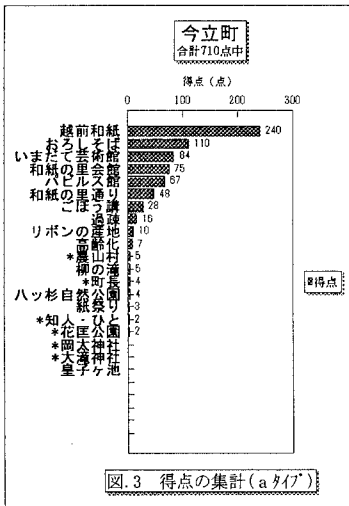


図. 3 得点の集計(aタイプ)

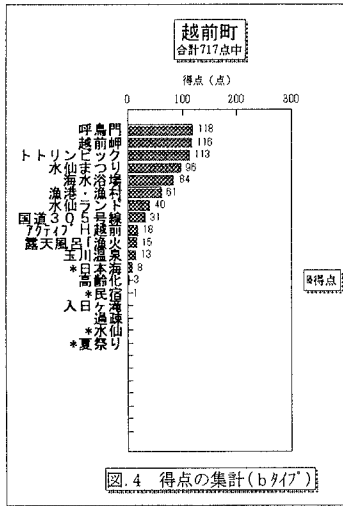


図. 4 得点の集計(bタイプ)

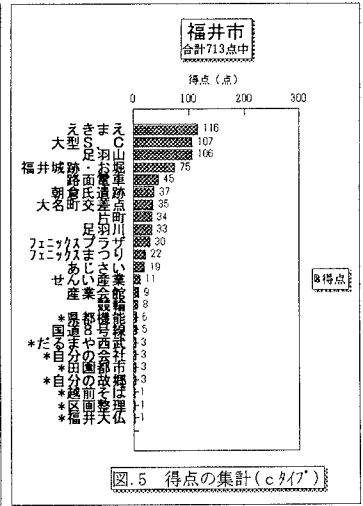


図. 5 得点の集計(cタイプ)

【5】イメージ評価値と構成要素の対応関係

SD法による形容詞句対毎の評価に加え、それぞれの形容詞句対の評価に直接関与した具体的構成要素についての回答を得た(図. 6参照)。この結果を地域毎に詳細にみることによって個別イメージ形成上の鍵となる要素の抽出、評価におけるばらつきの要因等を捉えることができる。こうした情報はイメージ戦略上の地域資源評価等において有用と思われる。

【6】まとめ

形容詞句対評価にみられる人々の心的評価の構造の把握、認知要素による地域の認知のされ方に関する考察、イメージ評価値と構成要素の個別対応による地域イメージの形成に対する詳細な検討によって、地域計画に有用な地域性に関する情報を得ることができた。これより、本研究で用いた調査方法・分析方法・考察視点に一応の有用性が認められたと言える。今後は、認知における要素間の連関構造等を踏まえた地域イメージ形成の詳細な把握、そしてこうした情報の今後の地域づくりへの反映のさせかたなどについて検討する必要がある。

〈参考文献〉西井和夫：地域イメージとその構成に関する風土分析手法 土木計画学研究・講演集No14(1)

石見利勝, 田中美子：「地域イメージとまちづくり」技報堂出版

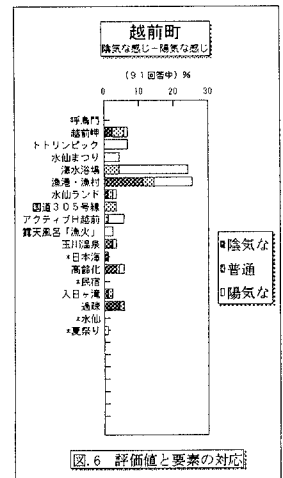


図. 6 評価値と要素の対応